

3 畦畔・法面の基盤整備後の植生の変化と被覆資材・抑草剤による管理技術

ねらい

基盤整備後20年経過した畦畔・法面で、整備後の植生の変化を調査し、植生の種類とマルチ資材あるいは抑草剤による雑草抑制効果を検討した。

内容

畦畔・法面の植生調査の結果、基盤整備直後ではイネ科一年生を中心に20種ほどの草種であったが、整備後の年数経過とともに種数が増加した。20年を超えた畦畔・法面では、チガヤ、ヨモギ、チドメグサなどの多年生草種を中心に70種を超え、年間を通して根茎や地下茎による畦畔・法面の崩壊防止に効果的であると考えられた。

マルチ資材4種を検討した結果、一年間を通して全く管理が不要で耐久性の高いポリエチレン高密度織物シート（ルンルンシート、図）を選定した。

刈払い代用の除草剤として、グリホサート液剤（25ml/a、10 l/a希釈）、グリホサート・ブタフェナシル水和剤（25ml/a、10 l/a希釈）、ビスピリバック液剤（50ml/a、10 l/a希釈）を選定した。これ

らの薬剤を刈払い後の草高が20～30cmの時に処理することで、1～2回の刈払い代用、あるいは省略が可能になる（表）。

普及上の注意事項

一年生草種中心の畦畔・法面での除草剤の使用は、裸地化してしまう危険があるので注意する。

須藤 健一（中央農技・作物部）



図 ルンルンシート設置2年目

表 処理区ごとの草種別草高と被度

処理区		チガヤ	ネコハギ	ノシバ	オヘイイチゴ	ヨモギ	ノチドメ	カタバミ	ノイバラ	シロツメクサ	カワラケツメイ
グリホサート液剤	前	30 74	15 3	5 3	15 1	5 1			5 11	20 1	
	後	20 66	15 1	5 9	15 1	15 1	5 3	5 1	10 1		
グリホサート・ブタフェナシル水和剤	前	30 66	5 6	5 11			20 6	5 6		10 1	10 1
	後	30 64	5 5	10 11			20 1	5 5			30 1
ビスピリバック液剤	前	5 75	10 4	5 8	15 3					5 3	10 1
	後	30 74	10 4	5 8	15 2						20 1
刈払い	前	35 70	10 t	15 10	10 t	30 t	10 5	5 1		15 5	30 t
	後	40 89	10 t	15 1	5 1		10 1	5 t			40 t

注) 草種は、発生頻度の高いもの、2区以上で発生の見られたもの、2時期にわたって発生の見られたものから10種類を示した。処理区の「前」は2000年7月24日(薬剤処理あるいは刈払い直前)の、「後」は9月5日の調査結果。表中数字の前列は草高(cm)を、後列は被度(%)を示す。tは1%未満。